

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 11 月 4 日 (16 : 30 ~ 20 : 00)

1. 初期支援 (はじめのかかわり)

メンバー 11 名 (楯野、杉原、竹内、浅井、岡田、鈴木、山上、藤田、小仙、川邊、山田)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1 人	1 2 人	人	人	1 3 人

前回の改善計画	月一度の職員会議を行い、利用者一人ひとりについてどのようなケアが必要かを話し合い全職員で共有する。初期利用時は管理者やケアマネが情報提供し、全員で共有しその後の生活の中で得られた情報を全職員で共有しケアの方向性を職員会議の場で決める。ケアマネはその決定事項を介護計画書に反映する。
前回の改善計画に対する取組み結果	月に一度の職員会議は出来ている。利用者ごとに必要なケアや支援を決めている。全員が職員会議に出れないため、決定事項は議事録にて開示し周知徹底するようにしているが、議事録作成に時間がかかる事が多いため情報共有に時間がかかっている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の情報やニーズについて、利用開始前にミーティング等を通じて共有していますか?	3	9	1		1 3
②	サービス利用時に、本人や家族・介護者が、まず必要としている支援ができていますか?	4	7	2		1 3
③	本人がまだ慣れていない時期に、訪問や通いでの声掛けや気遣いができていますか?	2	1 0	1		1 3
④	本人を支えるために、家族・介護者の不安を受け止め、関係づくりのための配慮をしていますか?	1	1 1	1		1 3

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
月に一度の職員会議にて利用者のケアの方向性や支援の内容を決め全職員に共有出来ている。都度発生する利用者の変化には申し送りノートや朝のミーティングにて情報共有し統一したケアを提供出来ている。まだ、慣れてない利用者には出来るだけ馴れて頂けるよう声掛けし、信頼関係を作ろうとしている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
職員会議参加者が少なく、全員に共有するのに時間がかかる。 職員会議の議事録開示に時間がかかってしまい、ケアや支援方針の決定事項の周知徹底に時間差が出来てしまっている。 職員会議の議事録を読んでない職員がいるため新しい決定事項などがわからず統一したケアや支援の提供がされていない。 日常の業務に追われニーズの把握をしなければならないとの認識が持てない。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
職員会議議事録は開催日から 3 日以内に作成、書記は重要な決定事項は申し送りノートに記述する。議事録作成後は速やかに議事録を必ず読むよう職員一人一人に申し伝える。また、翌日には出席できなかった職員に会議の内容を説明する機会を設ける。 職員は自分の担当のケアプランを把握し何がニーズとしてあるのかを理解し、コミュニケーションをとりながらニーズの掘り起こしにも努める。そのうえでどのようなケアが必要かを提案、助言する。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 11 月 4 日 (16 : 30 ~ 20 : 00)

2. 「～したい」の実現 (自己実現の尊重)

メンバー 11 名 (楫野、杉原、竹内、浅井、岡田、鈴木、山上、藤田、小仙、川邊、山田)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	3 人	7 人	3 人	人	13 人

前回の改善計画	介護計画書をより具体的に記述し、それを見る事でご本人の目的は何かを全職員に周知徹底する。常日頃からその人の目的は何かを意識するよう個別ミーティングで話合う。また、職員一人一人がどの利用者にも接点を持ち、要望の掘り起こしや目的を意識した支援を行う。
前回の改善計画に対する取組み結果	職員会議は毎月開催し個別ケアについて話合っており、具体的なケアの内容は決めている。迷う場合は1週間程度試しの期間を作り、そのケアが適切か見極めている。要望の掘り起こしや目的を意識した支援は、職員にばらつきはあるものの要望の掘り起こしや目的を意識した支援が出来ずにいる職員がいる。利用者本人の目的は何かを把握せず、日々業務に追われている様子が見受けられる。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	「本人の目標 (ゴール)」がわかっていますか?		10	3		13
②	本人の当面の目標「～したい」がわかっていますか?		13			13
③	本人の当面の目標「～したい」を目指した日々のかかわりができていますか?	1	10	2		13
④	実践した (かかわった) 内容をミーティングで発言し、振り返り、次の対応に活かしていますか?	1	9	3		13

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
自己実現の尊重をする事について、職員会議や利用者家族と話し合い、出来るだけご本人の要望を充足出来るよう実現している。出来ることはしてもらい、出来ない部分のみを支援している。また、少し頑張れば出来ると思われる行為は、最小限の支援にとどめその行為ができるよう努めている。実践結果は職員会議や朝のミーティングの場で公表し次の対応を決めている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
利用者一人ひとりについてニーズが何なのか理解出来ないし、本来しなければならない支援がただの作業になってしまっている。ケアプランを読んでいないため目標が理解されていない、また目標としての情報共有が出来てない。目標がわかっているにもかかわらず対応できていない。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
担当の職員はケアプランをしっかり読んでニーズが何かを把握する。そのうえでニーズをしっかり意識して対応する。ニーズと相違するケアの提供がされている場合は、ケアの提供方法の修正や改善方法を指導する。ケアマネは利用者の具体的なニーズを抑えケアプランに落とし込み、全職員に周知徹底する。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 11 月 4 日 (16 : 30～20 : 00)

3. 日常生活の支援

メンバー 11 名 (楢野、杉原、竹内、浅井、岡田、鈴木、山上、藤田、小仙、川邊、山田)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	9人	4人	人	13人

前回の改善計画
月に一度職員会議を設け利用者様一人一人についてどのような支援が必要かを十分に話し合う。家族会を定期的開催し事業所とご家族・利用者様とのより良い関係づくりを目指し双方向の理解を深める。

前回の改善計画に対する取組み結果
月に一度、必ず職員会議を行い、ケアの方向性について十分な議論をしている。但し、議事録作成に時間がかかってしまい、決定事項の周知に時間がかかってしまっている。家族会開催を試みたが出席者がなく開催出来ない事態となった。まずは家族との関係作りからと考え、家族手紙 (連絡表) を毎月送付するところから始めている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人の自宅での生活環境を理解するために「以前の暮らし方」が10個以上把握できていますか?		2	10	1	13
②	本人の状況に合わせた食事や入浴、排せつ等の基礎的な介護ができていますか?	3	10			13
③	ミーティングにおいて、本人の声にならない声をチームで言語化できていますか?		5	8		13
④	本人の気持ちや体調の変化に気づいたとき、その都度共有していますか?		12	1		13
⑤	共有された本人の気持ちや体調の変化に即時的に支援できていますか?		13			13

できている点 200字程度で、できていることと、その理由を記入すること
体調面の変化等あった場合は管理者や看護師に報告し、医療面はしっかりと支援が出来る。生活面でも変化を見逃さず、管理者報告し必要に応じて対策を講じている。利用者の小さな変化にも気づき、都度対策を考えている。

できていない点 200字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
利用者のなかなか言えない事をつかみ切れていない。小さな変化を見逃しており観察不足である。職員と家族との情報共有が出来てないため、隠れたニーズをつかみ切れていない。家族会が開催できなかった。

次回までの具体的な改善計画 (200字以内)
その人のニーズは何か、職員個々の意識不足である。担当職員はその人のケアプランを読み込みニーズの把握に努める。また、日常の接点の中から言葉にならない本人の気持ちやニーズの掘り起こしに努める (より鋭い様子観察が必要)。ケアマネは家族と十分話し合いより具体的なケアの方向性を書面化し全職員に伝える。家族会は開催予定だが時期は未定。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 11 月 4 日 (16 : 30～20 : 00)

4. 地域での暮らしの支援

メンバー 11 名 (楫野、杉原、竹内、浅井、岡田、鈴木、山上、藤田、小仙、川邊、山田)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	5 人	6 人	2 人	13 人

前回の改善計画
近隣周辺の資源に何があるかの情報収集を行う。それによって利用者様毎に適合する資源の活用を行い他資源との交流を図る。お互いを知る事で利用者の地域での生活の充実を図る。

前回の改善計画に対する取組み結果
近隣周辺の資源については調査が全く出来ていない。定期的な外部ボランティア団体の招致を実施し利用者に喜んで頂く事は出来た。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	本人のこれまでの生活スタイル・人間関係等を理解していますか?		10	3		13
②	本人と、家族・介護者や地域との関係が切れないように支援していますか?		7	6		13
③	事業所が直接接していない時間に、本人がどのように過ごしているか把握していますか?	1	7	5		13
④	本人の今の暮らしに必要な民生委員や地域の資源等を把握していますか?		3	7	3	13

できている点 200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
家族手紙 (連絡表) を月に一度お送りしている。アサガオでの生活、自宅での様子 (独居の方)、夜間の様子 (泊まり利用の方)、イベント時の様子、医療面などを詳細に報告し関係の構築に努めている。
本人、家族とのコミュニケーションのなかで常に情報を得て、管理者やケアマネ、看護師に報告している。

できていない点 200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
民生委員や地域の代表、地域資源を把握していないため、埋もれている資源を活用できてない。
アサガオ利用、訪問時以外は本人の生活スタイルが把握できておらず、理解できないでいる。
情報収集しても職員の意識が低く把握していない。

次回までの具体的な改善計画 (200 字以内)
地区の民生委員や代表者との会合等に出席し、定期的な話し合いの場を作る。
地域資源を調べ一覧を作り職員に開示する。
ケアプランに使える地域資源を盛り込み、職員に周知徹底する。
職員も地域資源が何であるかをよく知り、使うことを考え提案等をする。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 11 月 4 日 (16 : 30～20 : 00)

5. 多機能性ある柔軟な支援

メンバー 11 名 (楫野、杉原、竹内、浅井、岡田、鈴木、山上、藤田、小仙、川邊、山田)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	1 人	9 人	3 人	人	13 人

前回の改善計画	<p>公的サポート、民間サポートに何があるのかを把握し全職員で共有する事。 どの方にどのサービスが適なのか事業所内会議で十分話し合い利用を試みる。 自事業所から情報発信 (パンフレットを作成し近隣の方々や他事業者、公的施設に配布) し他者との連携に繋げる。 研修を受け、スキルアップを図り利用者や家族の支援の質の向上を図る。</p>
前回の改善計画に対する取組み結果	<p>公的サポート、民間サポートに何があるのかを調べ切れていない。そのため概ね事業所内でのサービス提供で完結してしまっている。 情報発信 (パンフレットを作成し近隣の方々や他事業者、公的施設に配布) や出来た。同業他社との交流も片方向ではあるが出来始めている。</p>

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	自分たち事業所だけで支えようとせず、地域の資源を使って支援していますか?	1	4	8		13
②	ニーズに応じて「通い」「訪問」「宿泊」が妥当適切に提供されていますか?	3	8	2		13
③	日々のかかわりや記録から本人の「変化」に気づき、ミーティング等で共有することができていますか?	2	11			13
④	その日・その時の本人の状態・ニーズに合わせて柔軟な支援ができていますか?	1	10	2		13

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<p>急な宿泊や訪問等本人や家族のニーズに合わせて柔軟なサービス提供が出来ている。 日々の中で気付いた変化は記録し、個別カンファレンスや申し送りでも共有している。サービス変更やその日の本人の様子から食事、入浴等柔軟に対応している。 個別カンファレンスにより支援計画を話し合い計画を立てその人のニーズに沿ったサービス提供がされている。</p>	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<p>公的サポート、民間サポート等地域資源を調べられていない。家族の要望を聞き入れがちになって全てを受け入れ丸抱えの状態となっている、等自事業所でなんとか対応しようとしており許容範囲を超えている部分がある。ご家族への働きかけは都度行っているが、協力を得る事が難しい場合がある。</p>	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
<p>地域資源、公的サポートを徹底的に調べ上げ一覧にまとめる。 地区代表者や民生委員の会合に出席し、地域に溶け込む事をしていく。 有効なものは利用を検討し、必要に応じてケアプランに盛り込む。</p>	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 11 月 4 日 (16 : 30～20 : 00)

6. 連携・協働

メンバー 11 名 (楫野、杉原、竹内、浅井、岡田、鈴木、山上、藤田、小仙、川邊、山田)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	4 人	8 人	1 人	13 人

前回の改善計画	他サービス機関と積極的に会合を開き、その内容をミーティング等で職員全員に展開する。 地域の各種機関・団体の活動やイベントの情報収集を行い出来るだけ参加しコミュニケーションをとる。
前回の改善計画に対する取組み結果	他施設での取り組みを全職員が見学し、アサガオでの取り組みにどの部分が行かせるか参考になった。 他サービス機関との会合、地域の各種機関・団体の活動やイベントの情報収集は殆ど出来なかった。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	その他のサービス機関（医療機関、訪問看護、福祉用具等の他事業所）との会議を行っていますか？	2	5	5	1	13
②	自治体や地域包括支援センターとの会議に参加していますか？		5	3	5	13
③	地域の各種機関・団体（自治会、町内会、婦人会、消防団等）の活動やイベントに参加していますか？		3	3	7	13
④	登録者以外の高齢者や子ども等の地域住民が事業所を訪れますか？	1	8	4		13

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
医療機関や訪問看護、福祉用具事業者、作業療法士や理学療法士などと会議を行い必要に応じてケアプランに盛り込むなどしている。 月に 1 度の職員会議、朝のミーティングを実施、個別カンファや事業所改善提案など全職員が意見を述べる場がある。 運営推進会議にて出された意見の反映や利用者家族、近隣住民からの苦情には即時対応し同じ事が起きないような体制を作っている。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
誰もが安心して暮らすことを支える拠点としての小規模多機能介護施設であるが、地域と協働した取り組みがされていない。職員個々に考え方の差があるが前述のとおり地域ケアの拠点であるとの認識が希薄。そのため、登録者以外の方の来所や子ども等の来所がない。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
その他のサービス機関との会議、自治会のイベントや各種機関の活動に積極的に参加し、その内容を職員に周知する。 小規模多機能介護施設は地域の拠点であることを各職員が認識する事。 地域に埋もれているフォーマルサービスやインフォーマルサービスを利用する。 職員は送迎時に地域に出ていくという認識を持ち、近隣住民の方々にも見かけば挨拶を行う。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 11 月 4 日 (16 : 30 ~ 20 : 00)

7. 運営

メンバー 11 名 (楯野、杉原、竹内、浅井、岡田、鈴木、山上、藤田、小仙、川邊、山田)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	人	9 人	4 人	人	13 人

前回の改善計画

職員会議ではどの職員でも何でも発言できる場つくりにする。
 地域に何があるのか、どのサービスが利用できるかを把握し職員に伝達、何が協働できるかを協議し実施できるものは実施していく。振り返りも行う。
 苦情・意見の反映は同じことが二度起きないよう職員会議、朝のミーティング、申し送りノートの活用で防ぐ。

前回の改善計画に対する取組み結果

毎月一度の職員会議、毎朝のミーティングの場を設け誰もが発言できる場を作っている。
 地域と協働した取り組みが行われていない。地域資源の掘り起こしも出来ておらず、職員に周知できていない。また、職員も地域の拠点である事の認識が薄い。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	事業所のあり方について、職員として意見を言うことができているですか?	1	4	8		13
②	利用者、家族・介護者からの意見や苦情を運営に反映していますか?	2	9	2		13
③	地域の方からの意見や苦情を運営に反映していますか?	2	3	6	2	13
④	地域に必要とされる拠点であるために、積極的に地域と協働した取り組みを行っていますか?		1	10	2	13

できている点 200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
 月に一度の職員会議、朝のミーティングを実施、個別カンファや事業所改善提案など全職員が意見を述べる機会がある。職員会議等で改善策の提案し出来るだけ早い時期に実施している。
 近隣住民や家族、利用者から苦情があった場合は速やかに対応している。

できていない点 200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
 地域資源があってもアサガオ内で完結しようとする職員の意識の低さ。
 地域とのコミュニケーションが取れていないため、だれもが安心して暮らす事を支える拠点としての小規模多機能型施設として地域と協働した取り組みがされていない。
 苦情等に速やかに対応しているにも関わらず、同じ事で注意を受ける事がある。

次回までの具体的な改善計画 (200 字以内)
 まずは、地域にある資源を調べ職員に周知する。職員も利用できる資源について意識し提案をしていく。
 小規模多機能介護施設が地域ケアの中核拠点である事をしっかり認識し、地域資源を活用するだけでなくアサガオに地域の高齢者や児童、その父兄が出入りしやすい環境を作っていく。

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 11 月 4 日 (16 : 30～20 : 00)

8. 質を向上するための取組み

メンバー 11 名 (楫野、杉原、竹内、浅井、岡田、鈴木、山上、藤田、小仙、川邊、山田)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	5 人	8 人	人	人	13 人

前回の改善計画	計画的な事業所内研修の実施、公的機関の行う研修を職員に周知し参加者を募る。参加した職員は事業所内研修として講義内容を教える。 事故防止委員会を事業内に立ち上げ事故防止に役立たせる。
前回の改善計画に対する取組み結果	年間を通して院内、院外（公的機関、民間）研修に参加できた。参加した職員が講師役となり他の職員に講義内容を教えることは受講した講義の約半分程度出来ている。 事故防止委員会を立ち上げ、事故発生の分析と再発の防止策を、利用者担当職員、事故当事者職員、第三者の職員 3 人で決め、全職員に周知しており、対策はある程度順守されている。

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	研修（職場内・職場外）を実施・参加していますか	5	8			13
②	資格取得やスキルアップのための研修に参加できていますか	4	9			13
③	地域連絡会に参加していますか		5	2	6	13
④	リスクマネジメントに取り組んでいますか	5	6	2		13

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
年間を通して院内研修、職場外研修へ積極的に参加し、講義を受けた職員は、講師役となり研修で得た知識を伝達し事業所内研修としている。 事故防止委員会を立ち上げ、月単位で事故発生の分析を行い職員会議の場で公表し、リスクマネジメントに積極的に取り組んでいる。	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
地域連絡会に参加できてない。 研修を受けた職員は、半年後に受講した研修の振り返りを行う予定だったが、全く出来ていない。 指定の期限内に研修報告書が出来てない。	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
小規模多機能型居宅介護連絡会に積極的に参加する。 院内・院外研修受講後の事業所向け研修・振り返りを計画的に実施する。 報告書については 2 週間以内に提出するよう徹底する。	

事業所自己評価・ミーティング様式

実施日 平成 28 年 11 月 4 日 (16 : 30 ~ 20 : 00)

9. 人権・プライバシー

メンバー 11 名 (楫野、杉原、竹内、浅井、岡田、鈴木、山上、藤田、小仙、川邊、山田)

◆前回の改善計画に対する取組み状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	前回の課題について取り組みましたか?	2 人	9 人	2 人	人	人

前回の改善計画	<p>身体拘束廃止委員会を設置し定期的に研修を実施する。 後見人制度がどのようなものかをよく把握できてない職員もいる為、後見人制度や日常生活自立支援事業などを含めた介護保険制度の勉強会を実施する。</p>
前回の改善計画に対する取組み結果	<p>身体拘束廃止委員会を設置し定期的に研修を実施している。 後見人制度や日常生活自立支援事業などを含めた介護保険制度の勉強会を一部出来たが計画的なものではなく、合間をみて行っていた。</p>

◆今回の自己評価の状況

個人チェック集計欄		よく できている	なんとか できている	あまり できていない	ほとんど できていない	合計 (総人数)
①	身体拘束をしていない	9	4			13
②	虐待は行われていない	10	3			13
③	プライバシーが守られている	1	10	2		13
④	必要な方に成年後見制度を活用している	2	8	3		13
⑤	適正な個人情報の管理ができている		9	4		13

できている点	200 字程度で、できていることと、その理由を記入すること
<p>拘束になりかねないため行動抑制はせず寄り添い対応を行っている。入浴やトイレ、インシュリン自己注射などの場合はプライバシー保護の為カーテンやパテーションで仕切るなどの配慮を行っている。 利用者への心身への影響が大きい身体拘束や虐待は行われておらず人権保護の意識を持っている。</p>	

できていない点	200 字以内で、できていないことと、その理由を記入すること
<p>「ちょっと待って」や「さっきトイレに行った」等の言葉の拘束 (スピーチロック) や不適切な介護 (排泄にアコーディオンカーテンが開いている、褥瘡処置や排泄後ケアの際に腰にバスタオル等で覆わない等) を行う場面が散見された。利用者の心理面への配慮がなされず自己都合が優先されている。 個人情報の用紙がメモ紙にされている。</p>	

次回までの具体的な改善計画	(200 字以内)
<p>後見人制度や日常生活自立支援事業などを含めた介護保険制度の勉強会を計画的に実施する。 相手の行動を抑制するような言動をなくすため、待ってほしい時等はどれだけ待つのか、予測と見通しを相手に必ず告げるようにし、スピーチロック撲滅に努める。 利用者の羞恥心やプライバシー保護のための話し合いの場を持ち、職員全員が同じ意識を持つ。</p>	